

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作 見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 10月 31日 開始10時 20 分 ~ 終了15時 20分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゆうゆう （ 広島県 ）
評価調査員の氏名	氏 名 岡田 清子
	氏 名 平岡 朋加
事業所側対応者	職 名 管理者
	氏 名 近藤 ひとみ ヒアリングを行った職員数 ( 1 )人

**項目番号について**  
外部評価は30項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**  
[ 取り組みの事実 ]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[ 取り組みを期待したい項目 ]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[ 取り組みを期待したい内容 ]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3474500117
法人名	新市介護福祉サービス ゆうゆう
事業所名	グループホーム ゆうゆう
所在地	広島県福山市新市町新市888 (電話) 0847-51-3300
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-311-201
訪問調査日	平成 20 年 10 月 31 日

【情報提供票より】20 年 10 月 2 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	11 ユニット   利用定員数計 9 人
職員数	8 人   常勤 7 人 非常勤 2 人 常勤換算 7.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50000 円	その他の経費 (月額)	実費 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (八百円以上)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 1 日当たり		1200 円

### 4) 利用者の概要 10 月 2 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.1 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機

協力医療機関名	瀬尾病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特筆作成日 平成20年11月29日

閑静で最寄りに公園・小学校・公共施設がある。2階建物の明るい建物で入り口にはコルクボードに日替わりで日程が書かれていて、家庭的な花壇の鉢植えがあり、1階は併設の通所のデイサービスになっており、利用者の方の絵画が飾られている。2階が事業所でエレベーターを利用すると左側に居室があり、1フロアの床に畳が敷かれた和室やリビングにキッチンが見渡せ、安心して暮らすことができる。講師を招いての勉強会に職員主体の研修会や特に接遇に力を入れた取り組みを全体で行っている。利用者との信頼関係も良好であり書道・陶芸教室や併設のディサービスとの協力体制でレクリエーション・季節行事・外出等

## 【重点項目への取り組み状況

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)	前回評価での改善点は運営推進会議について準備段階であったが、本年度は年2回実施され取り組まれていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)	自己評価の実施意義は良く理解されている。自己評価は全職員で具体案を検討し、作成された。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)	運営推進会議は年2回開催し、日常の様子をスライドで報告し参加メンバーは事業所内の様子が理解でき好評である。メンバーからの意見を記録され、それを基にミーティングで周知し、サービスの向上に活かすよう取り組まれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)	月一度家族会で日常生活や健康状態・金銭出納帳の確認と報告をすると共に意見や要望などについても聞くよう努めている。面会時に於いても意見交換を行いその中で出された要望などを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)	事業主は町内会会員で関わりがあり、利用者の方も地域の一員として、溝掃除や夏祭りに参加し地元の方々との交流を大切にし、散歩の際には、挨拶の声かけを行っている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自にその人らしく明るく安心した暮らしができるように思いを共用し、支えていくことを全職員で考慮された理念が掲げられている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有しており定期的なミーティングやカンファレンスの際に意識確認を行い、実践に向けて日々取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として利用者と共に溝掃除の他、学区の夏祭りに参加する等、地域の人々との交流を密に行っている。また日頃の散歩の際に挨拶の声かけを心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価の意義は理解しており、外部評価の結果はミーティングで報告され改善に向け具体案の検討が行われ活用されている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月・9月年2回運営推進会議が行われている。事業所の現況をスライドで報告し参加メンバーは日常の様子が理解でき好評である。運営推進会議での意見を参考にサービス向上に活かす努力がなされている。		運営推進会議は2~3ヶ月に1回定期的に行うよう取組まれることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政による地域ケア会議に毎月参加し、連携を密に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一度の家族会で日常の様子や健康状態及び金銭出納帳を確認してもらうなど個々に合わせた対応とされている。異動に関しても報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にはコミュニケーションを大切にし、意見や要望を聞くように努められ、出された意見は運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員が対応にあたり異動や退職等やむを得ない場合、不穏のないようその時期や引継ぎの面でも最善の努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修会や勉強会に参加する機会を確保し会議の場やカンファレンスの場で報告を行い月1回の研修後、全体会議の中で個々のテーマ毎発表する等の取り組みが行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎週地域での連絡会に参加し同業者との交流とネットワーク作りに努めサービスの質の向上を目指し連携を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面談の上、不信感を抱かないよう対話を行い馴染んでもらい安心してサービスを利用している。やむを得ずすぐ利用される場合は、家族との連携を深め関係者に面会を依頼し理解が得られる努力がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活や食事・生活空間を共に支えあう重要性を理解しており、利用者から学んだり、お互いに協働し合いながら支援を行っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、個々の要望を聞き取り、生活歴を通じて、本人の思いを把握し、現状に合わせた支援を行い意思疎通困難な場合、家族の情報等により検討が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回、ケアカンファレンスで問題点を検討したり要望が反映できる書式の利用で全職員が課題に取り組んでいる。又、家族会でもアセスメントにより反映された介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月毎に見直しが行われており、状態の変化では即見直し本人・家族・職員及び関係者と話し合い変更された介護計画を作成し実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況におおじて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医院・病院を主治医とした対応で関係を築いており、協力医療機関もあり、随時相談や治療のできる体制が整えられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書が作成されており、事業所が対応できる最大限のケアの説明や早い段階でのかかりつけ医と共に話し合い方針を共有できる準備ができています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月行われている研修で接遇に関する勉強会を行っており、利用者一人ひとりの個性を尊重し、プライバシーを損わない対応と守秘義務が守られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりの生活リズムやその日の体調に合わせて希望に沿った支援が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調により力量に合った食事準備やおやつ作りを職員と一緒にやっている。又、同じテーブルで楽しく食べたり後片付けをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やタイミングに合わせた入浴支援を実施している。デイサービスの浴槽を好む人については希望に沿う支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を活かした役割で畑仕事や家事・書道・陶芸や階下のリハビリ室での娯楽等に気晴らしの支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や気分に合わせて外出の機会を増やしホーム周辺の散歩や買い物の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、構築上死角となっている階段は安全確保上施錠し家族に説明の上同意が得られている。エレベーターについては自由に使用できている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日常的に利用者と職員間で災害時の行動について話し合われ定期的に防災訓練も実施され消火体験も行われている。		定期的に消防訓練ができていて、避難経路も決められているが、2階が生活圏となっている為、窓側の狭い通路が避難場所なので、安全性の面での配慮及び地域の人々の協力体制が得られるような働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事は記録に残され、栄養摂取量は把握している。水分量はおおまかであるが確保できるよう支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花が生けてあり家庭的な雰囲気ですっきり、リビングは明るく不快な音や臭気もなく、ソファも置かれ居心地も良く落ち着ける共有空間である。又、2階が生活圏となっているがエレベーターを使用し階下のデイサービスにも自由に行くことができている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に相談し、家具類等使い慣れたものや馴染みのものを持ち込まれる方の配慮はできている。独り暮らしの方ではすでに処分されている場合もある。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ゆうゆう

評価年月日 2008年10月31日

記入年月日 2008年10月2日

記入者 管理者 氏名 近藤ひとみ

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所全体の理念に合わせ、グループホーム独自の理念を全職員で決め、実行にあたっている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・日々のミーティング・カンファレンス時に声かけ、意識確認などを定期的に行っている	全職員に連絡事項が行き届いているかの確認のため、確認後、各個人で印鑑を押し、周知徹底を再度行う。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・事業所全体の理念・グループホームの理念をリビングに掲示している。	家族、近隣住民の方への説明を行い、理解を深めたい (運営推進会議を利用)
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に屋外に出た際に、近隣の方と顔を合わせたら挨拶を交わし、世間話などをし、親近感を持ってもらえるような声掛けを実施している	運営推進会などを通して、意見を頂いたり、町内会での行事などにも積極的に参加し、付き合いを勧めていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の溝掃除や、学区の夏祭りなどには積極的に参加をしている。	ボランティアの受け入れも行っていきたい。傾聴ボランティアの依頼があり、2回ほど来所してもらったが、継続は出来ていないので、今後の課題とし、検討していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			介護相談や介護教室など、地域住民を対象としたものを開催していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、前向きに取り組んでいくように心掛けている。外部評価の結果は、ミーティングなどの機会に報告し、改善にむけての具体案の検討や実践につなげるような努力をしている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月・9月に運営推進会議を開催し、包括職員や、市町村職員、民生委員、ご家族様からの意見をいただき、今後のサービス向上に向けての参考にさせてもらっている		概ね2～3ヶ月に一回というペースでは実践できておらず、今後の課題とし、定期的実践できるよう努力していきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	5月・9月に運営推進会議を開催し、包括職員や、市町村職員、民生委員、ご家族様からの意見をいただき、今後のサービス向上に向けての参考にさせてもらっている		今後も、運営推進会議を開催する際には、声をかけ参加してもらえるようお願いしていきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にも参加し、必要性や詳しい内容などを勉強し、職員やご家族様にも必要があれば説明をしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的高齢者虐待などの研修に参加し、職員に報告している。虐待防止の理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけて丁寧に説明を行っている。特に、重度化や看取りについての対応、医療連携制度については詳しく行い、同意を得るようにしている。解約の際も同様に時間をかけ説明をしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>出来るだけスタッフが声をかけ、ご本人やご家族とゆっくり話をする機会を設けている。意見や苦情があった場合は、適宜、全職員で話し合いをし、日々のケアに反映できるよう心掛けている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族会を行っており、その際に日常生活の様子、健康状態についての説明、金銭出納帳のチェックも併せて行っている。職員の異動に関しては、その都度説明をし理解をいただいている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様には家族会などで常にお聞きしている。何でも話してもらえような関係作りにも努めている。出された意見については、ミーティング等で話し合い、反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に2回、ミーティング・カンファレンスを行い、意見を聴くようにしている。日頃から話が出来ようなコミュニケーションを取るよう心掛けている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤帯で受診や買い物などの活動が行えるよう、職員の配置には配慮をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の方々とスタッフの信頼関係を築くためにも、顔なじみの職員が対応する事が重要だと考えており、異動や退職者などのやむを得ない場合でも、その時期や引継ぎ面での最善の努力を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 . 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外で開催される研修会や勉強会には、なるべく多くの職員が受講できるよう、勤務の調整をしている。研修報告も会議の場やカンファレンスの場で発表できるよう取り組んでいる		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、毎週地域で行われている連絡会に参加をし、地域の同業者と連携を取ったり、ネットワーク作りに努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員と面談をし、悩みやストレスについて聞き、想いを把握するよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所として、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を実施している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった際には、必ず本人様に会い、心身の状態や想いに向き合い、職員がスムーズに受け入れる事が出来るような関係作りに努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様が困っている事、感じている事、望んでいる事などをよく聞き、どのような対応が出来るかを検討し、希望に添えるような対応を心掛けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の想い、状況を聞き、改善に向けた支援の提案、複数の選択肢を掲示し検討した上で支援を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずご本人に会い、面談をしたうえで入居をしていただいている。やむを得ず、すぐに入居となった場合はご家族様や関係者の方に面会に来ていただき、理解してもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、食事を共にしたり、生活の空間を共にする事でお互いに支えあう事の重要性を理解し、日々の業務にあたっている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の際に、日々の状況などを詳しく伝える事が出来るようにしている。ご家族様からの要望も積極的に聞くようにし、ご本人を支えていくための関係作りをしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会への参加の呼びかけ、面会に来ていただくなど、関係が途切れないように留意している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもちろん、馴染みだった方、親戚などの面会も自由に行えるよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中での役割活動を通して、入居者同士の関係が円滑に行えるよう働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、しっかりと話をし、個々の要望などを聞き取るように努めている。また、意思疎通困難な方には、家族様より情報を得るようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に、今までどのような生活を送っていたかなどのアセスメントをしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は、入居者の方々の出来る事や、現状を理解・把握し、個々のペースに合わせた支援を行うよう心かけている		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書の見直しをし、要望などが反映出来るような書式を使い、全職員が一読し、理解できるような形を取っている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月に一度の見直しを行っている。状態が変化した場合に即時見直し・変更を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の方々の状態・状況は、個々の介護日誌に記載し、職員間の情報共有を行っている		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスなどと協同し、外出行事や、夏祭りなど、大勢で実施できるような行事にも参加し、柔軟な対応が出来るような支援を行っている		
4 . 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			運営推進会議の参加を依頼し、意見をいただいたり、協力体制を構築していく機会を作っていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療的な支援が必要になった場合など、他の施設への連携を図るなどの支援をしている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、意見を頂いたり、困難ケースがあった場合の相談役になってもらえるような関係を作っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族さまの希望される医院・病院を主治医とし対応を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、協力医の他、定期的また、必要時に往診に来ていただける医師が数名いるので、必要に応じて随時相談が出来たり診断・治療が出来るような体制を整えている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務ではあるが、計画作成担当者が看護師であり、併設のデイサービスには看護師が勤務しているため、健康チェックや処置などを行っている。また、緊急時にはその看護師に24時間体制で連絡がとれるような体制をとっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐように、病院関係者との話し合う機会を早期に持ち、事業所内での対応が可能な段階で、なるべく早く退院が出来るよう努めている。また、ご家族とも情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しうる最大限のケアについての説明をし、同意を得ている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時や家族会の際に、ご家族の意向などを聞き取り、ターミナル期に向けた話し合いを行っている。当施設で出来る事・出来ない事についても説明を行い、同意を得た上でターミナル期に備え準備を行っている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所への転居・入院などの際には、情報提供書を渡すと共に、情報交換を行うなど、住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
( 1 ) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>毎月、社内で行っている研修の中で、接遇研修を取り入れている。入居者の方の個性を尊重し、プライバシーを損なわないような対応を職員一同で取り組んでいる</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>複数の選択肢を提案し、入居者の方が自己決定出来るような場面を作っている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは決まってはいるものの、時間を区切ったような生活はせず、あくまでも入居者の方の状況や状態に合わせた生活を行っている</p>	
( 2 ) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の方と一緒に買い物に出かけ、自分の身の回りの物などを中心に、好みの物を購入していただけるよう支援している。また理髪は定期的に行っている。パーマに関しては、ご家族での対応をお願いしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>おやつ作り、昼食・夕食作りは入居者の方と職員が出来るだけ一緒に作っている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物に出かけた際欲しいものなどを伺い、支援を行っている。喫煙・飲酒については、希望に応じて対応している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	個々の排泄パターンを把握し、適宜、声かけや誘導を行っている		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	毎日の入浴を実施しており、入居者の方の要望に合わせて入浴支援を行っている		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	日々の活動やレクリエーションへの参加を促すなど、生活リズムを整えるよう努めている。また、個々の睡眠パターンを把握し、対応をしている		
( 3 ) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	畑仕事や家事などをしてもらい、個々に合った支援を行っている		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	金銭管理が困難なため、ご家族と相談の上、施設でお金を預かり施設内で管理している		今後、個人で管理出来る方の入居などがあった場合は、個々に合わせた対応を行っていきたい
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	天気の良い日には散歩や買い物に出かけるなど、外出する機会が増えるよう支援している		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	日常の会話などから行きたい所などを聞き、可能な限りで外出先に選び、出かけるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の要望がある場合、希望に応じて対応している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、ご本人の居室での宿泊も要望があれば応じるようにしている		
( 4 ) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、定期的に身体拘束についての勉強会も行っている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構築上、死角となる場所（階段など）には安全確保のため、やむを得ず施錠を行っているが、その旨は、入居時に、ご家族への説明も行っており同意を得ている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者の方と同じ空間で記録等を行い、さりげなく全員の状況の把握をするよう努めている。夜間は2時間おきに状況を確認すると共に、起きてこられた際には、すぐに対応出来る様努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方の状態に合わせながら保管・管理を行っている。刃物などは、入居者の方の手の届かない、目に付きにくい場所に保管を行っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態から推測できるリスクを検討し、事故を防ぐための工夫に取り組み、誤嚥のリスクの高い方には、必ず見守り等を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が救命救急の講習を受け、定期的に勉強会なども行っている。また、夜間の緊急時対応マニュアルを作成し、フロアに掲示している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日常的に入居者の方とスタッフ間で、災害時やその際の行動についても話している。定期的に防火訓練も実施しており、消火体験なども行っている		今後は、地域の方の協力体制の基盤も整えていく必要がある
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎月の家族会の時に、ご家族に説明を行っている。起こりうる様々なリスクについての説明を行い、ご本人にとって、抑圧感のない暮らしを大切にしたい具体的な話し合いを持つようにしている		
( 5 ) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況をスタッフは把握しており、少しでも異変が見られた場合には、バイタルの測定等を行い、記録に残し、状況に応じて医療機関への相談・受診対応をしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬状のコピーをとり、個人カルテに挟んで、いつでも見れるようにしている。変更があればその都度入れ替えをしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事作りやおやつ作りの際に、バランスを考えて調理するように心がけている。また、散歩や家事活動、レクリエーションなどを通して、身体を動かす機会を設け、自然排便を促すよう努めている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや、必要に応じての介助も行っている。就寝時には義歯の洗浄も行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量などを毎回介護日誌に記録し、スタッフ全員が大まかな摂取状況を把握している。食事の献立は残している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者の方を始め、スタッフもインフルエンザの予防接種を受けている。また、起こりうる感染症については全職員で勉強し、予防や対策に努めている。感染予防のためペーパータオルを使用している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾、食器類を毎回漂白し、清潔を心がけている。また、新鮮で安全な食材を提供するために、買い物にはこまめに行くようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
( 1 ) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に案内板を設置し、親近感を持っていただけるような情報の発信を行っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音や、ご飯の炊ける匂いなどの五感から得られる安心感や、季節に応じた食べ物などを積極的に取り入れるなどの工夫をしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置いたり、豊の空間を作り、リビングにはソファを設置し、個人で過ごせたり、気の合う仲間と過ごせるスペースを作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやなじみのある物がある事によって、安心感を持って生活していただける事の説明を行い、在宅で利用していた物を出来るだけ持ってきていただくようお願いをしている		随時、ご家族へのお願いをしているが、処分しているといった返答が多い。新しく入居する方に関しては、入居時に説明をし、なじみの物で生活をさせていただくようお願いをしている
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整については、温度計と入居者の方の様子を見ながら行っている。空気の入替えも定期的に見て行っており、トイレについては、換気扇による換気と、消臭剤にて悪臭が出ないように工夫をしている		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方に合わせて、手すりや浴室、トイレや廊下などの設計がなされている		シンクの高さなどは改善や改修が困難であるが、それらも、スタッフと一緒にすることで安全を考慮しながら支援をしている
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の入居者の状態に合わせた環境整備を行うよう努めている。また、日常生活の中で、スタッフ間で個々の状況について話し合いをし、安心して生活していただけるよう努めている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外に畑を設けており、花や野菜作りなど、日常的に楽しみながら活動が行える環境を作っている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月、家族会や書道教室や陶芸教室を実施している。

併設の通所介護事業所と連絡を取り合い、大勢で出来るレクリエーションや季節行事、外出なども積極的に取り入れている。  
利用者の身体的な状況に応じて、家庭的なお風呂に入れられない時には、安全面も考慮して、特浴での入浴の支援も行っている。